

ウクライナの叫び

戦争の現場からのご報告とお願いー

ビル・ウィルソン師は、無事アメリカに帰国しました。
お祈りありがとうございました。

皆様にはすでに、SNS やメールなどでご報告しましたように、ビル・ウィルソン師は3月に、救出活動と現場の状況確認のためにウクライナ国内に入りました。

アメリカ人のビル師が入国することは危険でしたが、現地の孤児院と障害児施設から、直接ビル師に救援要請があったこと、本当の必要を見極めるために現地に向かいました。

長年にわたる、危険の多いスラム街での活動の経験と、12歳で母親に捨てられ、自身も障害を持っていたビル師には、私たちとは全く違う当事者としての視点と情熱があります。

とにかく、要請のあった孤児院から子どもたちを国外脱出させ、金銭的余裕や保護者もない子ども、障害や病気のため移動のできない状況にある人々や子どもたち、そして彼らを守っている人々には、実際に何が必要なかを調査してきました。そして、必要物資の供給方法と脱出ルートを確認して、現場の担当者が、その後の活動をできる状態にしました。

これからは、必要な物資の供給や救助活動を継続的に行い、一人でも多くの命を救うことがで

きるよう、力を尽くしていきます。

ニュースでもご存知のように、現地では、日々人々の命が失われています。孤児も増える一方です。そして、国外に逃げることのできない人々は、生活の必需品が手に入らず、飢えや衰弱、医療品不足が深刻になり、危険な状況に陥っています。また、国を守るために立ち上がった人々にも、自分を守る防具がありません。

大きな組織や世界的な団体、国家からは、武器や様々な救援物資が届けられ、国境地域では救出活動や、脱出後の保護活動も盛んに行われています。

しかし、国内にまで入って救出活動をするグループはほとんどありません。また日本人は、日本政府により、ウクライナへの渡航や入国は、いかなる理由によっても禁止されています。

ウクライナのために、具体的に生きたご支援をしたいと願っている方がいらっしゃいましたら、ぜひメトロの活動にご協力ください。

戦いが終結しても、復興や子どもたちのケアには、長い時間がかかります。どうぞお祈りください、ご支援ください。

ご支援は下記 QR または
メトロウクライナで検索



フィリピン学用品支援！

お申し込み締め切りは4/26(火)

詳細は3月レポートに同封の申込書または ⇒



今月の引き落とし日！

18日(月)です。ご確認ください！

今月号の目次

P2…スラムに生きるということ

P3…ウクライナとその他の国のご支援のお願い

P4…日本事務所からのお知らせ

スラムに生きるということ

子どもの証し動画



この2年間、ビル師のセミナーを開催することができませんでしたので、メトロの活動について、よくわからないままスポンサーになってくださった方々もいらっしゃると思います。このコーナーで、各地の状況や働きの内容について具体的に紹介していきたいと思います。

ご存知の方も多いと思いますが、メトロ・ワールド・チャイルドの創設者である、ビル・ウィルソン師は、12歳の時に、突然路上で母親に「ここで待っていなさい」と言われ、そのまま捨てられました。母親が戻ってくることを信じて、空腹と不安の中で待っていた3日間。みすぼらしい身なりをして、がりがりに痩せ、障害を持つビル少年に声を掛ける人はひとりもいませんでした。



フィリピン・マニラのスラムで

しかし、3日間、ずっとその場所にいる少年に気付き、声をかけてくれた、たったひとりのクリスチャン男性によって彼の人生は変わりました。全ての働きの原点はここにあります。

誰からも気に留められず、路上に置き去りにされ、親に捨てられたことを理解した時の衝撃。親も、周りを行き交う多くの人々からも必要とされない孤独。食べるものも飲むものもないつらさと悲しさ。そして、たったひとりの人でも、自分の存在に気付き声をかけてくれた時の安堵と喜び。

この当事者としての体験が、メトロの働きの原動力です。だからこそ、今、目の前にいる、助けを必要としている子どもたちに、人々に、何が 필요한のか、本当のニーズを見極めることができるのです。



アメリカ・NYの巨大スラムでの道端教会学校

ビル少年は、教会の倉庫のような一室に住み、教会の人々の差し入れてくれるもので成長し、牧師となりました。そして、自分と同じような人々の住む、ニューヨークのスラム街にやって来て活動を始めました。45年以上も前の話です。当時、スラム街に住んだ初めての白人でした。

彼の体験に基づく、子どもたちとの親しい関わりによって、開催する教会学校には、すぐにたくさんスラムの子どもたちが集まってきました。子どもの数の急激な増加による苦情や、必要経費の増大、危険な地域で活動するスタッフの被害など、様々な困難が次々と押し寄せてきました。

しかし、ビル師の情熱は変わりませんでした。厳しい状況での忍耐強い働きにより、徐々に協力者が起こされ、活動地域の目に見える変化はアメリカ政府の目にとまるようになりました。貧困者の対応やスラム街での犯罪の増加に頭を悩ませていた政府は、彼をアドバイザーのひとりに加えたのです。

長年の働きの成果と、誠実な働きぶりが評価され、大きな信頼を得るようになったため、活動地域は、ニューヨークから世界へと広がり続けています。ユニセフや国連などの大規模団体へ送られる支援物資も、最後は支援を受ける人々の手元に持って行くことのできる人々が必要です。しかし多くの場合、貧しい国々は公務員の不正も多く、途中で盗まれることもあるため、支援物資が必要な人々まで届かないこともあるのです。



ケニア・ナクルのスラムで食料配付

その上、極貧地域の人々は、政府や一般の人々から見捨てられていることが多いので、人々を信用せず、その地域に他から来た人々が入っていくことは大変危険です。そのため、そのような物資を最終的に極貧地域に住む人々に届ける働きがメトロのスタッフに委託されることも多いのです。

メトロの働きの最大の目的は、物資の支援ではありません。教会学校で神様の愛を伝え、子どもたちをスラムから脱出させることです。しかし、世代を超えてスラムに住み続ける人々が多いので、それは生半可なことではありません。世界のスラムは、どこも非常に大きく、子どもたちは生まれてから一度もスラムから出たことがないのです。スラムに住む考え方が染みついた大人ばかりを見て育つため、親や周りの人々と同じ将来しか考えたことがなく、自分もそうなると信じているのです。

次回から、さらに具体的なお話をします

メトロ・ワールド・チャイルド

緊急募集

① ウクライナ支援

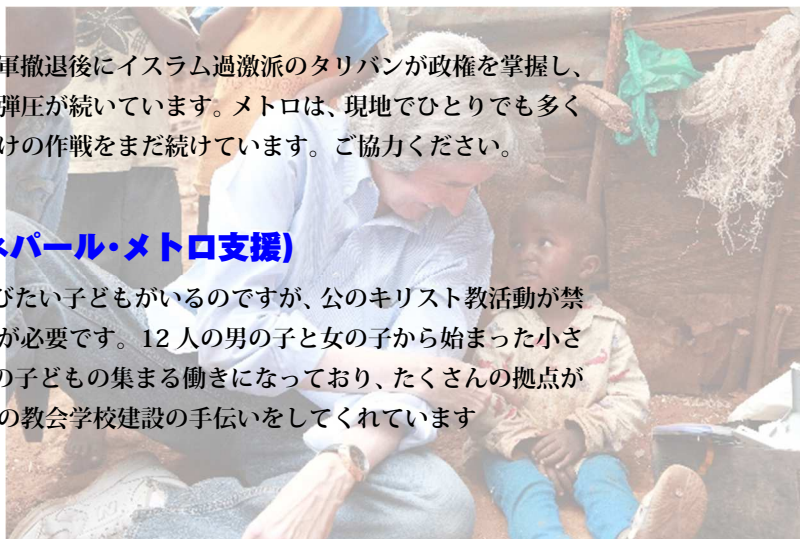
現地に行くことにより、具体的な必要を見つけることができました。できる範囲で結構ですので、ご支援をお願いいたします。

ウクライナ支援は、専用の Web ページを作成しました。「メトロウクライナ」で検索されるか右のQRコードからお願いします。



② アフガニスタン救出支援

アフガニスタンでは、昨年のアメリカ軍撤退後にイスラム過激派のタリバンが政権を掌握し、外国人やイスラム教徒以外への激しい弾圧が続いています。メトロは、現地でひとりでも多くの人々を国外へ脱出させるために命がけの作戦をまだ続けています。ご協力ください。



③ Give A Kid A Brisk (ネパール・メトロ支援)

ネパールでは、メトロの教会学校で学びたい子どもがいるのですが、公のキリスト教活動が禁止されているため、子どもを守る建物が重要です。12人の男の子と女の子から始まった小さな教会学校は、今では1200人以上もの子どもの集まる働きになっており、たくさんの拠点が重要です。子どもたち自身も自分たちの教会学校建設の手伝いをしてくれています。

④ 新規スポンサー募集

支援の必要な子どもたちは世界中で増え続けています。また、アフリカではケニアを始め各国へ支援が広がっています。

1箇所拠点が広がるごとに、数百人単位で支援の必要な子どもたちが増えていきます。1ヶ月5000円のご支援ですが、ご支援をお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

スポンサー申し込みのページはこちら ⇒



メトロの紹介ページはこちら ⇒



支援受付ページ



—支払い方法—
クレジット決済 / お振込み

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン

〒104-0061 東京都中央区銀 4-5-1 教文館 6F TFC 内

TEL: (03)3561-0174 FAX: (089)925-1501

e-mail: metrojapan@mission.or.jp

HP: <https://metroworldchild.jp/>

お振込先

ゆうちょ銀行: 一六九店 当座預金 0041610

郵便局: 記号番号 01650-3-41610

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン

日本事務所からの重要なお知らせとお願い

！口座残高をご確認ください！

残高不足等で引き落としができなかった場合は、次月分と合算して再引き落としさせていただいております。

再引き落とし手数料として 110 円を追加させていただきますので、ご了承ください。

確実に引き落としできるように、引き落とし日前までに口座の残高をご確認くださいますようお願いいたします。4月の引き落とし日は、4月18日（月）です。

お引っ越しなどにより、引落銀行口座の変更をご希望の場合は、手続きが必要となりますので、お手数ですが、日本事務所までご連絡をお願いいたします。

手紙の翻訳について

子どもからの手紙などの翻訳を毎回ご希望の場合は、日本事務所にお知らせください。次回からは訳を同封してお送りします。日本語と韓国語のみご対応できます。

毎回翻訳をお送りすることにされた方から「子どもの状況がより詳しくわかるようになってよかった」というお喜びの声もいただいています。

また、子どもへの誕生日カードや手紙なども、日本事務所でも翻訳いたしますので、日本語の手紙を日本事務所までお送りください。

手紙などもらったことのない子どもにとって、大きな喜びと励ましになりますので、簡単な内容でお手紙を書いてみてください。

送付先は以下の青枠内でご確認ください。

！子どもと皆様を守るために

ネットの普及により、個人情報の保護は想像以上に難しくなっています。子どもに手紙を送る際は、ご自分の苗字と住んでいる地域名を、記入しないようお願いいたします。

(例)× Hi ! I'm Taro Yamada. I'm live in Tokyo.

× こんにちは。山田太郎です。東京に住んでいます。

○ Hi ! I'm Taro. I'm live in Japan.

○ こんにちは。太郎です。日本に住んでいます。

必要以上の情報はネットで探し出されて悪用されることもあります。友だち申請などメトロを通さない連絡には返事をしないでください。メトロでは、長年にわたる様々な経験により、子どもとスポンサーの方々双方にとって最善の対応を心がけています。

日本事務所よりごあいさつ！

今年があっという間にさくらが満開を迎え、驚きましたが、天候にも支えられて、その美しさを満喫された方も多いことでしょう。

皆様のお祈りに支えられて、ビル師は無事ウクライナから帰国しました。ありがとうございます。

相変わらず、胸が痛くなるニュースが連日伝えられていますが、メトロでは、他の団体では思いつかない支援や、救出方法など、ビル先生らしい計画が発表されていますので、Facebook やメールなどでもご案内します。祈りと共にできる範囲でご支援ください。

イースターを迎える日々が、皆様にとって祝福されたものとなりますよう、お祈りします。また、コロナ禍で厳しい状況の中にある方々が、経済や全ての面で守られますようにとお祈りします。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんだい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座 4-5-1

教文館 6 階 TFC 内

電話 03-3561-0174

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、下記宛をお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン